


# 作業手順書

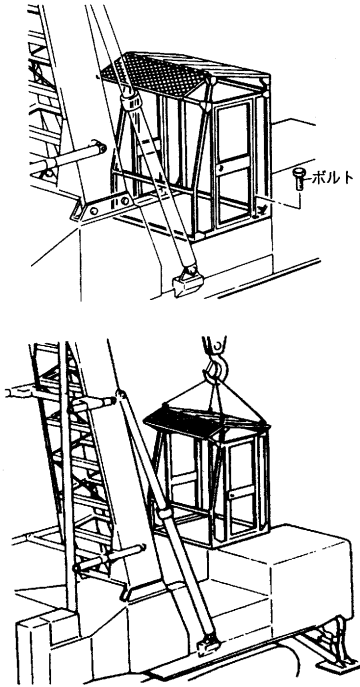
作成 平成14年 3月 1日

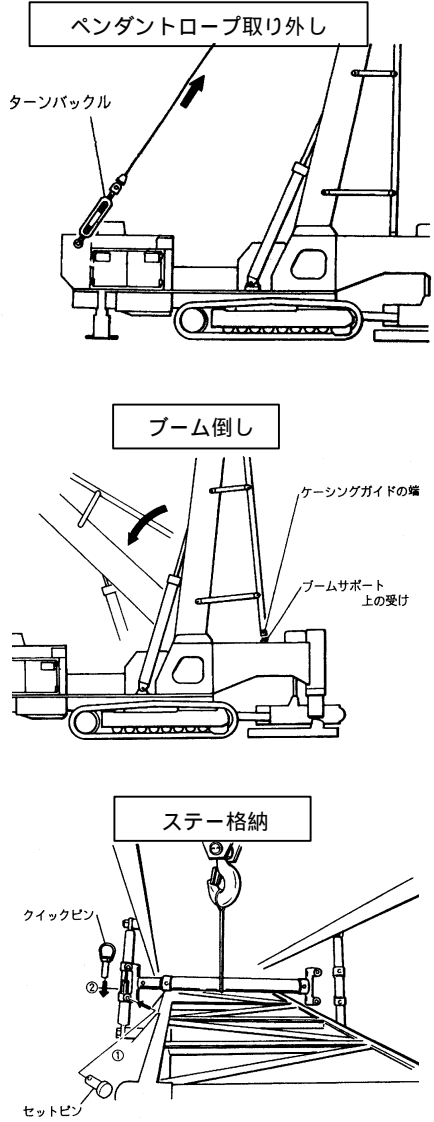
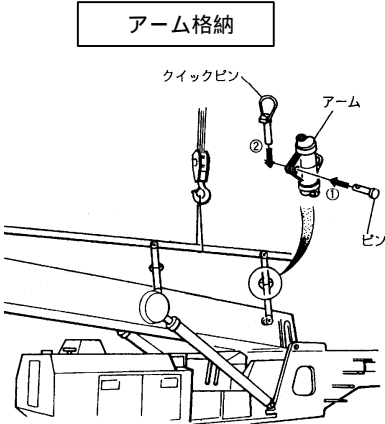
ベノト掘削機解体 作業手順書	作業所名 某ビル新築工事作業所	確認 担当者 担当者 専門業者
	社名 (株)佐藤水工社	
作業概要： ディープウェル設置完了に伴いベノト掘削機の解体を行う。	使用機械 揺動式ベノト掘削機 ラフタクレーン25t吊 エンジンウェルダ ハンマグラブ レンチ類、玉掛具	検討会 実施日： 年 月 日
	使用工具 保護具 ヘルメット、安全帯 安全ゴム長靴、手袋	主催者
	資格・免許等	参加者サイン
作業期間： 平成14年 3月 日 ~ 平成14年 月 日	車両系建設機械（基礎工事） 移動式クレーン運転士 玉掛作業	
作業人員： 4名		

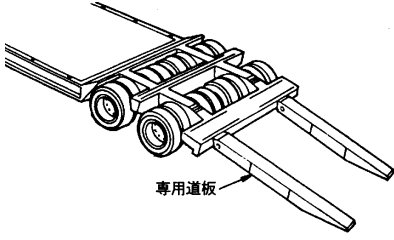
作業区分	作業手順	作業の要点	危険予知	安全対策
TBM	<p>1 新規入場者教育を受ける。</p> <p>2 作業開始前のミーティングを行う。</p> <p>3 作業手順KYKを行う。</p> 	<p>全作業員が同席し、担当職員から教育を受ける。</p> <p>当日の作業内容および競合する他工種の作業内容を説明し、周知徹底を図る。</p> <p>玉掛合図者等の指揮命令系統を明確にする。</p> <p>服装、安全装備を点検する。</p> <p>健康状態を確認する。</p> <p>当日作業を確認したうえで、危険予知を行う。</p>	<p>作業場内の状況を知らずに行動し事故を起こす。</p> <p>他工種に配慮した安全対策を取らず、事故を起こす。</p> <p>不明確な指示に従い、事故を起こす。</p> <p>服装の乱れにより、巻き込まれ事故を起こす。</p> <p>疲労による「めまい」などにより墜落落下事故を起こす。</p> <p>通常とは異なった作業となり、手順を誤って、事故を起こす。</p>	<p>作業場内の危険個所、作業状況等を周知徹底する。</p> <p>他工種の作業内容を考えて、作業エリアを確保する。</p> <p>指揮命令者を選任し、作業者全員に周知徹底する。</p> <p>相互チェックを行い、不備の是正を行う。(長袖着用、腕まくり禁止)</p> <p>個々に聞き取りを行い健康状態を把握する。</p> <p>全員が同じ目線で危険を認識し、対策を話し合う。</p>

作業区分	作業手順	作業の要点	危険予知	安全対策
準備作業	<p>1 始業前点検の実施 ベノト掘削機 ラフタクレーン</p> <p>玉掛け用具</p> <p>保護具 ・ヘルメット ・安全帯 ・安全靴（長靴、半長靴）</p>	<p>検査証、点検表の確認を行う。</p> <p>ワイヤの交換時期を確認する。</p> <p>始業点検記録表</p> <p>有資格者が点検を行う。</p> <p>点検後、直ちに点検済みテープを貼り、不良品の混入を防ぐ。</p> <p>用途別に定められたワイヤを使う。</p> <p>使用期限を確認する。 傷、破損等の異常をチェックする。</p>	<p>期限が切れている。</p> <p>長期使用による劣化でワイヤが切れ落下事故を起こす。</p> <p>点検漏れ部分の不備で事故が発生する。</p> <p>劣化によりワイヤが切れて落下事故を起こす。</p> <p>ワイヤを取り違え、強度不足によりワイヤが切れ落下事故を起こす。</p> <p>品質劣化により破損し、事故を起こす。</p>	<p>安全書類作成時に入念に照査する。</p> <p>交換基準は次のとおりとする。 素線切れ： 1本以上 摩耗： 公称径の2%以上</p> <p>始業点検記録表により点検を行う。</p> <p>捻れ、キンク、素線切断(素線の3%)を丹念にチェックする。</p> <p>作業所の定めに従って点検する。</p> <p>ロック装置、フック等の付属金具も入念に点検整備する。</p> <p>日常的に保護具の手入れを行い、品質劣化等に注意を払う。</p>

作業区分	作業手順	作業の要点	危険予知	安全対策
準備作業	2 作業領域の確保と整理整頓	ベント機およびラフタクレーンの据付地盤をチェックする。 作業に使用可能なスペースを確認し、保安施設材料で作業エリアを明示する。	地耐力不足により重機が転倒する。 他工種の重機械と接触事故を起こす。	敷鉄板を適切な位置にセットする。  他工種と競合する場合は、職長同士で綿密な打ち合わせを行う。

作業区分	作業手順	作業の要点	危険予知	安全対策
本体作業	<p>1 作業場所のチェック</p> <p>2 ベノト掘削機の移動据付</p> <p>3 キャビンの解体取外し</p> 	<p>杭孔等の有無について情報を収集したうえで、担当監督員立会の元、現場調査を行う。</p> <p>合図者の誘導により平坦な場所に移動する。</p> <p>本体にぶつけないよう静かに吊り上げる。</p>	<p>地盤支持力の不足によりベノト機、ラフタクレーンが転倒する。</p> <p>掘削機に轢かれて負傷する。</p> <p>キャビンと本体の隙間に手指を挟む。</p> <p>キャビンが作業員に接触する</p>	<p>状況によっては地盤改良等の地盤補強対策を協議検討する。</p> <p>機械移動は合図者の誘導に従う。</p> <p>手元に注意しながら作業する。</p> <p>吊り荷（キャビン）の下から待避する。</p>

作業区分	作業手順	作業の要点	危険予知	安全対策
本体作業	<p>4 ケーシングガイドの解体</p>  <p>ペンダントロープ取り外し</p> <p>ターンバックル</p> <p>ブーム倒し</p> <p>ケーシングガイドの端</p> <p>ブームサポート上の受け</p> <p>ステー格納</p> <p>クイックピン</p> <p>セットピン</p>	<p>ペンダントロープを取り外す。</p> <p>ブームを格納する。</p> <p>ステーを格納する。</p> <p>アームを格納する。</p> <p>ガイドバーにワイヤを掛け、ゆっくり折り畳む。</p> <p>アーム格納</p>  <p>クイックピン</p> <p>アーム</p> <p>ピン</p>	<p>メインワイヤが逆戻りし、ワイヤで打撃される。</p> <p>ベント機から落下して負傷する。</p> <p>機械の隙間に体や手指を挟む。</p>	<p>逆戻りしないよう先端を固定する。</p> <p>安全帯の命綱をベント機に固定する。</p> <p>単一作業の完了を確認してから、次の作業に取りかかる。</p>

作業区分	作業手順	作業の要点	危険予知	安全対策
本体作業	<p>5 搬出用車両の入場</p> <p>6 本体の積み込み</p> 	<p>運転手の見える位置で誘導合図する。</p> <p>車両は駐車ブレーキをロックする。 誘導員の指示に従って作業する。</p>	<p>誘導員、作業員が車両に轢かれる。</p> <p>クローラが道板から外れて転倒落下する。</p>	<p>車両の誘導経路および誘導方法について、運転手と事前に打ち合わせる。</p> <p>乗車経路は立入禁止とする。</p>
片付工	<p>1 機械工具類の片付け</p> <p>2 保安施設を移設した場合は原形に復旧する。</p>	<p>機械工具類は点検整備後、所定の場所に精鋭整頓して保管する。</p> <p>担当監督員の指示を受けると共に、事後の確認を受ける。</p>	<p>機械工具で手指を負傷する。</p>	<p>作業時と同じ安全装備で作業する。</p>

